

2014年度開講科目

調査実習概要報告書

/

2015年4月15日

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)
(ふりがな)	のせ まさはる 野瀬 正治	
連絡責任者氏名		科目設置機関名
(ふりがな)	わたなべ つとむ 渡邊 勉	関西学院大学 社会学部
授業科目名	行のID番号	受講者数
社会調査実習 I	KSGa-140706-0	20人

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生が自らの問題意識に基づいて積極的に調査に取り組むことを期待し、自主的に自ら創意工夫をして指示待ちでなく実習に取り組むようにした。学生の関心領域は広く、個人別に調査テーマを設定して取り組む方法もあるが、今回は、個人別のテーマを設定するのではなく一つのテーマに収斂するような取り組みを行った。具体的にはジェンダー問題を4つの視点から調査した。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

学生と社会との関係についての調査を、いわゆる産業社会学を中心とした領域で実施した。

2. 調査の内容/概要：

調査内容としては、産業社会におけるジェンダー問題を大きなテーマとしてとらえ、仕事・女性労働関連領域を中心に調査を行うことにより独自の考えを纏めることを狙った。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

質的調査、量的調査、統計資料および文献調査を中心に実施した。

4. 主な調査項目：

①属性、②男女の働き方、③就活意識、④労働意識、⑤女性の社会進出、⑥女性車両、など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：

大学生へのアンケート調査の実施

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

量的調査については2014年11月12月・関学上ヶ原キャンパスで実施

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：

量的には不足でありさらに調査対象を増やす方法を考えたい。質的には学生への教育時間数が限られていることなどから考えるとさらに工夫を行いたい。(配布数95, 有効回収票72, 回収率 75.8%)

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

量的調査については、単純集計およびクロス集計を中心に、カイ二乗検定やt検定なども行った。また、セカンダリ・データ等も利用して分析を行った。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

今回の「女性の社会進出」に関する調査結果をみると、まだ社会で十分に女性が働きやすい環境、制度が整っているとは言えず、仕事を続けたくても女性が辞めざるを得ないことが多い社会状況であることが分かった。すなわち、今回の社会調査の結果、育児休業などの制度を重要視する女性が多く、制度が整っていれば利用するという女性が多くいる事がわかり、女性労働者の意識、行動選択において、育児休業など女性の社会での活動を支援する制度の充実化がきわめて重要であることが分かった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

各自の卒業論文などに反映できるようにさらに指導する。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。